

公表

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果

事業所名	児童発達支援センターどれみ	公表日	令和8年 2月 17日				
		利用児童数	50名	回収数	18名		
	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	17	1	0	0		今年度、各クラスの活動と子どもの動線を考え、部屋の変更を年度中途でさせていただきました。今後も子どもたちの活動内容に応じて環境や空間を考えて支援していきます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	16	0	0	2		少人数でのクラス編成を組み、丁寧に個々にあった療育支援体制をとっていきたいと考えています。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	1	0	0		既存の公共施設であるため、一部改修等が難しい箇所もありますが、子どもの動線や活動を考え、引き続き安全でわかりやすい環境を設定していきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	16	2	0	0	・絨毯などで遊んだせいか目の痛みがあり赤くなっていたことがあります。	お一人お一人の体質や変化に素早く気づいて原因の追及と対策を行い、ご家族との引継ぎをしっかりとっています。
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援を受けられていると思いますか。	14	3	0	1		保育士、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、公認心理師、相談支援専門員が在籍し、お子さま一人一人の状況や状態を観察、把握し、個々に合った支援を提供する努めています。支援には、ご家族との情報共有やご家族から教えていただくアクセスメントはとても大事なヒントをいただいている。これからもご家族とのコミュニケーションをしっかりとっています。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	13	3	0	2		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	13	3	0	2		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	13	3	0	2		公表させていただいている支援プログラムでお示ししているねらいと取り組み内容を基に、毎月保育計画を立て、各クラスの活動内容とその目的を職員で共有し、各クラスのお子さまの状態を鑑み環境設定を行っています。日々の活動でひとり一人のねらいと取り組みの結果をご家族の皆様にも丁寧にお伝えできるようにしていきたいと思います。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15	2	0	1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12	4	0	2		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	該当なし（並行通園児・就園年齢に達していない利用児の利用のため）					
保護者への	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	15	1	1	1		重要事項説明書を基にご説明させていたく機会を設けていますが、丁寧さに欠けていたというご意見もいただきました。わかりやすく丁寧にご説明させていただくよう努めます。
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	13	5	0	0		児童発達支援計画を基にお子さんのことをご家族と共に話し合える場の設定を持っています。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	15	1	0	2		ファミリーミーティングやペアレントトレーニングの場を設定してご家族通しの交流や情報共有の場を設定しています。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	16	2	0	0		毎月実施しています保護者通園時間では、直にお子さまの療育に参加していただき、ありがとうございます。ご家族の皆さんにはご家庭での様子等も聞かせていただき、私たちも新たな発見があります。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11	3	1	3		個別支援計画書の説明時面談の機会を十分に確保できるようにしていきたいと考えています。また、日頃からお子さまの子育てに関すること等気軽に相談できる体制をとっています。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16	2	0	0		

説明等	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	9	3	1	5	お楽しみ会のイベントやファミリーミーティング、母子通園等を企画し実施しております。今後も皆様のご期待にお答えできますよう、ねらいをもち内容を充実させていきたいと思います。ぜひご参加ください。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	14	1	1	2	ご家族とのコミュニケーションは、支援を行う上でとても必要です。ご家族の思いに寄り添いながら、丁寧な対応を行っていく力をしっかりとつけていきたいと思います。
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14	1	1	2	
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	11	4	0	3	定期的に通信やブログ等で発信させていただいているのでご覧いただきたくお願いします。
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	14	1	1	2	個人情報の取扱いに配慮が欠けているというご意見をいただきました。職員一人ひとり意識を高め、十分に留意できるよう努めてまいります。
非常時等の対応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14	2	0	2	毎月定期的に避難訓練や感染症対策訓練等を実施しております。どれみ通信を通して周知させていただきます。
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	15	1	0	2	
	25 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16	2	0	0	
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16	2	0	0	
満足度	27 こどもは安心感をもって通所していますか。	16	2	0	0	子ども自身が、安心して好きな場所、頼れる大人がいる場所であり続けたいと思います。
	28 こどもは通所を楽しみにしていますか。	16	2	0	0	
	29 事業所の支援に満足していますか。	16	2	0	0	・アプリがあるのにあまり活用できていない。給食の献立表やスケジュールおたりなどはアプリのお知らせ欄に上げていくのではなく、メニューの資料室や献立表やカレンダーなどから確認できるようにしてほしい。 ・子どもに対する事全般は満足しているが、書類管理、伝達等の対応が社撰と言わざるおえない。 アプリの活用につきまして、各通園されている園との混亂を避けるため、活用を躊躇していました。今後アプリを最大限活用できるように努め、伝達等の漏れを防いでいきます。皆様のご協力もよろしくお願いいたします。 また、書類管理の見直しを行い対応を進めています。

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援センターどれみ
------	---------------

公表日 令和8年 2月 17日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	クラスの部屋の1つは狭いが、利用児の特性や活動内容を工夫し取り組んでいる。	利用児の特性や状況を鑑みクラス編成を行い、療育活動を組み立てています。静と動の活動の場の空間や活動の動線を考え、利用児が安全で過ごせる場の設定を今後も検討していきます。
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	2	欠員（職員が休み）がでた場合を考えると現状少ない。 児童発達の職員はぎりぎり。	利用定員に対しての配置は適切ですが、当日の利用児の状態等に対して、必要な支援ができる配置をしていきます。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	2		生活空間や活動の動線を考え、今年度変更したが、建物の構造上の不具合等もあるため、今後もより良い環境設定を作っていくようにします。既存の公共施設であるため、一部改修等が難しい箇所もありますが、安全でわかりやすい環境を設定していきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	2	エアコンの不具合があり、修理に時間を要した。昼食をとる部屋の日差しが暑い。屋上でのプール、砂場の環境、衛生面や健康面で心配。	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0		日々療育の振り返りと利用児のアセスメントを行い、必要に応じて個別対応を行っています。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	0	4月の目標設定を振り返る機会をどれみ会議でとれるとよいと思った。	会議の場で進捗確認と方向性の共有をとるようになります。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1		職員間での建設的な意見等を出し合い、業務改善が図れるようにしていきます。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	4	外部評価の結果がまだ確認できていない。	近年実施できていないため、実施に向けて検討します。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0		知識・技術の幅を広げよりよい支援につながるように努めます。
適切な支援の提	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0		公表の支援プログラムで示しているねらいと取り組み内容を基に、毎月保育計画を立て、各クラスの活動内容とその目的を職員で共有し、各クラスのお子さまの状態を鑑み環境設定を行っています。日々の活動でひとり一人のねらいと取り組みの結果を振り返り、次回の支援に活かすようにしています。個別支援計画に基づいて、評価とアセスメントを繰り返し支援を行っています。
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8	0		
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0		
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0		
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0		
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0		活動プログラムを各クラスの発達に合わせて細分化し、具体的な活動を職員間で検討し提供しています。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0		

供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0		日々の支援の振り返りの時間を設定し、職員間で共有するとともに、次回の支援の体制や活動内容の確認を行っています。また、定期的に個別支援計画書に基づく、モニタリングを行い、支援の評価を行い、見直しや継続の確認を行っています。
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8	0		
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0		
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0		
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0		
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0		
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0		現状の把握や具体的な支援方法等の共有は、子どもの支援をする上でとても必要なことだと思います。保育所や認定こども園、幼稚園や関係機関等それぞれと調整を行い、見学を行ったり、ケース会議等ができる機会を設けていきたいと考えています。
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	0		
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1	他の児童発達を利用している子どもの様子を知りたい。	
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	0		
	(28~30は、センターのみ回答)				
	28 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	8	0		
	29 質の向上を図るために、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	8	0		
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	8	0		
	(31は、事業所のみ回答)				
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。			対象外	
児童発達支援計画	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。			該当なし（並行通園児・就園年齢に達していない利用児の利用のため）	
	33 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	2	送迎の方が多くなり話す機会が減っている。来てくださっている保護者とコミュニケーションがとれていると思われる。	保護者と子どもの発達の状況や課題を共有する機会を定期的に持ち、コミュニケーションを図っていきます。
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレン特レーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	0		
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0		重要事項説明書や支援プログラム、個別支援計画書等の説明の場は、ご家族とコミュニケーションの大事な時間でもあります。丁寧に説明をするとともに、子どもへの思いや子育ての状況をアセスメントする機会にもなっています。
	36 児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0		
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	0		

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0		毎月実施の保護者通園週間では、直に子どもの療育に参加してもらい、ご家族の皆さんからご家庭での様子等を伺い、療育支援や子育てにつなげています。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	0		ファミリーミーティングやペアレントトレーニングの場を設定してご家族通しの交流や情報共有の場を設定しています。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0		相談支援と連携をし、療育現場の見学や相談を行っています。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0		定期的に通信やブログ等で発信させていただいている。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0		職員一人ひとり意識を高め、十分に留意できるよう努めてまいります。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	4	つばみ展の開催はなかった。	作品展の企画等を検討します。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0		毎月定期的に避難訓練や感染症対策訓練等を実施しています。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0		利用前アセスメント面談時確認しています。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0		利用前アセスメント面談時確認し、必要に応じて医師の指示書を求め、それに基づく対応をしています。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0		毎月定期的に避難訓練や感染症対策訓練等を実施しています。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0		取り組み内容については、ご家族に通信等で周知をしていきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0		ヒヤリハットについては、日々取り上げ検討実施しています。子どもの状態を把握し、必要な支援を考えています。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0		毎月、虐待防止計画に基づき、テーマを定めデスカッショント研修を行い、自身の支援を振り返っています。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	0		

参考様式A5(自己評価等関係)

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターどれみ			
○保護者評価実施期間	令和 7年 12月 4日 ~ 令和 7年 12月 20日			
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	50	(回答者数)	18	
○従業者評価実施期間	令和 8年 1月 21日 ~ 令和 8年 1月 27日			
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	8	(回答者数)	8	
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 5日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・様々な職種の職員がいるため、多角的な視点から子どもたちの発達を捉え、個々に合わせた支援に繋げることができる。	・定期的にケース会議を実施し、様々な職種からの意見を取り入れている。	・事例検討や保育内容学習等を実施し、様々な視点から発達を学ぶ機会を設ける。
2	・専門職、保育士等様々な職種が、会議に参画し活動プログラムの立案を行っている。	・年間の保育案を基に活動プログラムを立案している。各クラスの子どもの状態に合わせて、ねらいを明確にし実践につなげている。	・活動プログラムに合わせた環境設定。 ・さらに活動が広げられるような活動内容の検討。 ・保育活動の振り返りの充実を図る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者同士の交流の機会が少ない。	・毎月保護者通園の習慣をもち、保護者同士が療育に関わる機会をもったり、定期的に保護者交流会等を実施しているが、企画内容が保護者のニーズに沿っていない。	・参加しやすい開催方法の検討。 ・保護者のニーズ把握を行い、保護者交流会やイベントを企画する。
2	・事業所内マニュアルに沿った定期的な訓練や研修、緊急時対応についての保護者周知不足である。	・情報の伝え方や内容に対して明確にできていない。	・マニュアルに沿った研修や訓練等の年間計画を作成し、保護者に周知する。 ・緊急対応を含む様々な情報については、お便りのみの発信ではなく、コドモンを使用した情報提供を行う。

公表	保護者からの保育所等訪問支援事業所評価の集計結果
----	--------------------------

事業所名	児童発達支援センターどれみ	公表日	令和8年 2月 17日
------	---------------	-----	-------------

利用児童数 135 回収数 28

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	訪問支援に使用する教具教材が整えられていますか。	0	2	0	26		ご家族との面談や報告には、面談室等を活用しプライバシーを守っていきます。訪問先での状況をご家族と共有しながら、訪問先での支援を丁寧にお伝えしていくように努めています。年2~3回程度の訪問支援を実施しています。お子さまの様子に合わせて、希望される訪問回数や時期に支援ができるよう、随時相談を受け付けています。
	2	プライバシーに配慮された面接室等が整えられていますか。	26	0	0	2	施錠の出来る別室が用意されています。	
	3	事業の目的が適切に説明されていると思いますか。	25	2	0	1	そう思います。	
	4	保育所等訪問支援の頻度や時間について、相談の上決定されていますか。	28	0	0	0		
適切な支援の提供	5	子どもの状態に応じた支援が提供できる職員（職種や人数）体制だと思いますか。	22	3	0	3	訪問に何名でいかれているのか知らない。	お子さまの特性等十分理解し、保育所等で安心して支援が受けられるよう、訪問先施設や担当、担任等と関わっています。個別支援計画については、保護者のニーズ把握や訪問先の施設での様子をアセスメントし、事業所で作成しています。また個別支援計画書(案)は訪問施設等と共に、保育・教育に活かせることができるよう内容を検討していきます。今後も訪問施設等と連携しながら取り組んでいきます。
	6	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	24	1	0	3		
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、保育所等訪問支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	24	1	0	3	事前に連絡も頂くので、気になる点を先に相談することも出来る。	
	8	保育所等訪問支援計画（個別支援計画）には、訪問先施設や担当等の意向が盛り込まれていると思いますか。	21	1	1	5		
	9	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	23	1	0	3	分かりません。	
	10	保育所等訪問支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	25	1	0	2	学校側と支援の共有、指導もしてもらっています。	
	11	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先施設に配慮した支援が行われていると思いますか。	21	1	1	5	分かりません。	
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	25	3	0	0		重要事項説明書を基にご説明させていただく機会を設けていますが、丁寧さに欠けていたというご意見もいただきました。わかりやすく丁寧にご説明させていただこう努めます。
	13	「保育所等訪問支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	24	3	0	1	ありました。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行なわれていますか。	25	3	0	0		ファミリーミーティングやペアレントトレーニングの場を設定してご家族との交流や情報共有の場を設定しています。
	15	必要なときに子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解がでていると思いますか。	25	3	0	0	出来ていると思います。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20	5	1	2	定期的かどうかはわかりません。	個別支援計画書の説明時面談の機会を十分に確保できるようにしていきたいと考えています。また、日頃からお子さまの子育てに關すること等気軽に相談できる体制をとっています。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	26	1	0	1		
	18	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	21	4	0	3	相談には乗ってもらえますが、対応となるとわかりません。	ご家族とのコミュニケーションは、支援を行う上でとても必要です。ご家族の思いに寄り添いながら、丁寧な対応を行っていく力をしっかりとつけていきたいと思います。
	19	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	26	2	0	0		
	20	事業所は、訪問先施設からの相談等に適切に応じ、必要な助言と支援が行われていると思いますか。	22	1	0	5	聞かせてもらっています。	

	21	保育所等訪問支援を実施した際に、訪問先施設と訪問支援の内容について話し合いが行われていると思いますか。	23	1	0	4		
	22	保育所等訪問支援を実施した際に、保護者に対して適切に共有がなされていると思いますか。	26	1	1	0	訪問後の様子や報告などがあれば嬉しいです。	
非常時等の対応	23	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	20	1	0	7		定期的に通信やブログ等で発信させていただいているのでご覧いただきたくお願いします。
	24	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	24	3	0	1		個人情報の取扱いに配慮が欠けているというご意見をいただきました。職員一人ひとり意識を高め、十分に留意できるよう努めてまいります。
	25	事業所では、緊急時の対応について訪問先施設と連携し、実践できるようにしていると思いますか。	20	1	0	0		今後も訪問先施設と連携し、必要に応じて関係機関と情報共有を行うようにしてまいります。
満足度	26	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	25	0	0	3		安全計画をしっかりと周知し、お子様やご家族が安心して支援が受けられるように努めています。
	27	子どもは訪問支援を嫌がっていませんか。	25	0	0	3	喜んでいるようです。	子ども自身が、安心して訪問施設で過ごしてもらえるよう今後も連携してまいります。
	28	事業所の支援に満足していますか。	24	3	0	1	年1回程度なんでも若干少ない感じもありますが、唯一のお話しの機会なのであると助かります。	訪問回数については年2~3回程度を実施しています。お子さまの様子に合わせ、希望される訪問回数や時期に支援できるよう相談を受け付けています。

公表

訪問先施設からの保育所等訪問支援事業所評価の集計結果

事業所名			公表日			令和 8年 2月 17日	
児童発達支援センターどれみ						回収数 14	
	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
1	訪問支援員からの助言や説明は、具体的でわかりやすく、取り入れやすいものですか。	13	1	0	・専門性の視点での読み取りから、どういった支援が有効であるかがよく分かり、いつも学びになります。 ・専門的な視点から、発達状況や具体的な遊びなどの説明を頂けてありがとうございます。	保育園(所)、幼稚園等の環境や体制に合わせ、具体的な支援について検討できるよう心がけています。今後も保護者同意の基、個別支援計画を共有し、より分かりやすい助言や説明に努めます。	
2	訪問支援員の支援に対する知識・技術等に満足していますか。	14	0	0	・より専門的な視点で、支援方法などを教えて頂けている。	子どもが見せる行為行動を発達的な視点から考え方、検討の話し合いができるように努めます。実際の保育や教育の現場で有効な助言となるよう、知識・技術の幅を広げよりよい支援につながるよう努めます。	
3	訪問支援員は質問に対して、適時・適切に回答してくれていますか。	14	0	0	・行っている支援に対し、良い点や改善点、視点を教えて頂けている。		
4	保育所等訪問支援を利用したことで、課題や困りごとが解消または軽減されましたか。	12	2	0	・発達について、専門的角度から的確に指示を頂けたので良かったです。 ・子どもの姿が変わってくると、また新たな困りごとが出てくる。 ・具体的な支援をわかりやすく丁寧に教えて頂けるので保育のヒントになっている。	子どもの発達を捉え、想定できる状態像をと共に共有していくよう、アセスメントを行っていきます。	
5	事業所からの支援に満足していますか。	13	1	0	・全体的に子ども一人一人に十分時間を取り観察して下さり、詳しく解説して頂くので有難いです。現場の質問にもわかり易くこたえて下さり、同席させて頂く加配担当者も楽しみにしています。質問者のレベルに応じて解説して下さり大変勉強になります。 ・もう少し回数があれば、その都度相談ができるのであります。 ・園に来て頂いたり、逆に訪問見学させて頂いたり、連携していくことは、保育園にとってとても心強く思っています。	訪問日当日だけでなく日常の生活をイメージし、そのままの発達に合わせた保育・教育が受けられるよう、助言や説明に努めます。 児童発達支援センターとして、児童発達支援事業とも連携し、訪問先施設の方々が療育現場での姿を見学する等を行い、現状の把握や具体的な支援方法の共有ができるようにしていきます。	
その他のご意見				ご意見を踏まえた対応			
<p>・色々相談にのって頂き、ご助言いただき、ありがとうございます。専門的アドバイスを頂けるので、職員も大変勉強させて頂いております。</p> <p>・以前、どれみ療育に通っていた保護者さんからお聞きした話ですが、迎えに行くと「本人がテーブルの上に乗って遊んでいても注意されていなかった。」とのことでした。身体をつくるなどの目的があるとは認識していますが、保育園ではテーブルの上に乗ることには、その都度注意をしていますし、テーブルとは別のものを用意して体を動かすあそびができるように工夫しています。社会的な共通認識として、保育園、療育共に同じ方向性をもって進めていけたらいいなと思っています。</p> <p>・利用されている子どもたちが、どのように療育で過ごしているのか、見学する機会があればいいなと思います。</p> <p>・あそびの研究会などの勉強会、楽しみに参加させて頂いています。</p> <p>・いつも丁寧な助言や説明に感謝しています。</p> <p>・どれみのバス通園時、園に帰ってきた際に食事量やバスでどれくらい寝たかなどを伝えて頂きたいです。その後の保育に影響するため。</p> <p>・どれみで食事が十分とれない時は、保護者に電話連絡などを入れて頂きたいです。帰園してもおやつまで時間があり、かれいそうで、機嫌も悪くなる。</p> <p>・支援に迷う事がありますが、質問をしたら丁寧に教えて頂けるので、次の日から実践する事が出来る。また、専門的な目で見て、アドバイスを頂けるので勉強になります。時々、どれみさんとの情報交換をして頂けると嬉しいです。</p> <p>・春のアセスメントはありますが、3.4ヶ月程ちどり子どもの姿や特性がわかってきた中での子どもの姿、かわいいについての悩みなどを相談できる場があるととてもありがとうございます。</p> <p>・療育を利用されているお子さんについては冬の時期に訪問がある為その時に相談できますが、それ以外の子どもについて話を聞きたい。</p> <p>・保護者支援について、園と訪問先施設さんとの連携の円滑化について。</p> <p>・今後ともよろしくお願い致します。</p> <p>・どれみさんでの療育の様子を見学させていただいたり、保育所での様子を見ていたいたりという連携をこれからも大切にしていきたいと思います。また、保護者支援という意味で、その都度連携を密にとり引き継ぎ細やかな連携をとっていきたいと思います。いつもありがとうございます。</p> <p>・これからもよろしくお願いします。</p> <p>・いつもわかりやすくご説明・ご助言いただきありがとうございます。支援児だけではなく、より良い関わりをしていくために他のお子さんも観て顶いたく機会があれば有難いです。また、研修の機会がありましたら参加させていただきたいと思います。お忙しい中とは存じますが、よろしくお願ひ致します。</p> <p>・専門的な視点から児童の現発達段階、今後おそらく表れるだろう姿を丁寧に教えて頂き、とても勉強になりました。園での何気ない生活、遊びが児童の発達を促すとてもいい作用をしていることも具体的に教えてもらいたい意識して過ごせるようになりました。ありがとうございます。</p> <p>・可能であれば、訪問の回数を増やして頂き、アドバイスを頂けるとありがたく思います。若い保育士が多く、支援の方法や視点など学ばせて頂けると職員育成にもつながりありがとうございます。</p> <p>・お忙しいとは思いますが、ご検討いただけましたら幸いでございます。</p>	<p>・色々なご意見をいただきありがとうございます。真摯に向き合い、良きパートナーとして今後も連携よろしくお願いいたします。</p> <p>○児童発達支援事業についてのご意見</p> <p>ご家族の家庭状況等の理由により、保育所等への送迎にご理解ご協力いただきありがとうございます。それぞれでお子さまの状態を知ることは、お互いの支援に不可欠な情報であると思います。送迎では他のお子さまも乗り合わせているため、ゆっくりお伝えする機会ができていなかったこともあります。今後は、ご家庭とどれみをつなぐ連絡帳をご家族の同意の基、各通園先の皆様にも見ていただき情報を共有できるようにしたいと考えています。また、どれみで生じた事故等については、どれみからもご家族に連絡した旨をお伝えしています。</p> <p>児童発達支援事業と連携を図り、現状の把握や具体的な支援方法等の共有は、子どもの支援をする上でとても必要なことだと思います。児童発達支援事業も併用されている訪問先のお子さまについては、それぞれの調整を行い、見学を行ったり、ケース会議等ができる機会を設けていきたいと考えています。</p>						

公表

保育所等訪問支援事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センターどれみ				公表日	令和 8年 2月 17日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	課題や改善すべき点	
環 境 制 ・ 整 運 備 営 ・	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	2		参考になる教材は一部準備しているが、今後見直し・検討・追加していきたい。	訪問先の職員の方々と共有できる教材等今後も検討していきます。	
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	2				
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	2				
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2				
	5	従業者の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2			職員間での建設的な意見等を出し合い、業務改善が図れるようにしていきます。	
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2				
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	2			知識・技術の幅を広げよりよい支援につながるように努めます。	
	8	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	2			ご家族との面談や訪問施設での担当者等との情報や療育現場でのお子さまの姿をアセスメントして個別支援計画書に反映し、ご家族や関係機関に共有して、お子さまにとって有効な支援になるよう努めています。	
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	2				
適切な支援の提供	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	2				
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2				
	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2				
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的な内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	2				
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2				
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2				
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	2				
	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	2				
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	2				

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	2			現状の把握や具体的な支援方法等の共有は、子どもの支援をする上でとても必要なことだと思います。保育所や認定こども園、幼稚園や関係機関等それぞれと調整を行い、ケース会議等ができる機会を設けていきたいと考えています。
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2			
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	2			
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	2			
	24	(自立支援)協議会子こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	2			
	25	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	2			
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2			
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	2			重要事項説明書や支援プログラム、個別支援計画書等の説明の場は、ご家族とコミュニケーションの大事な時間でもあります。丁寧に説明をするとともに、子どもへの思いや子育ての状況をアクセスメントする機会にもなっています。
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	2			
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	2			
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	2			
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	1	1	必要に応じて行っている面談時、訪問前後のお伝え時、必要時に都度行っている。	
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2		ファミリーミーティングを行っている。	
	33	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	2			
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	2		どれみ通信やブログで紹介している。	
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2			
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	2			
訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	2			訪問先施設等には、訪問実施後にカンファレンスを行い、課題を共有し共に支援を考えられるような関係性を引き続き築いていきたいと考えています。
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	2			
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	2			
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2			
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	2			

非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2			毎月定期的に避難訓練や感染症対策訓練等を実施しています。
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2			毎月定期的に避難訓練や感染症対策訓練等を実施しています。
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	2			ヒヤリハットについては、日々取り上げ検討実施しています。子どもの状態を把握し、必要な支援を考えています。
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	2			毎月、虐待防止計画に基づき、テーマを定めデスカッション研修を行い、自身の支援を振り返っています。
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、保育所等訪問支援計画に記載しているか。	2			

公表

保育所等訪問支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターどれみ			
○保護者評価実施期間		令和 7年 12月 4日	～	令和 7年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	135	(回答者数)	28
○従業者評価実施期間		令和 8年 2月 2日	～	令和 8年 2月 5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)	2
○訪問先施設評価実施期間		令和 7年 12月 4日	～	令和 7年 12月 20日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	15	(回答数)	14
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 6日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・専門職による訪問の実施	・公認心理師、作業療法士、言語聴覚士が訪問をしている。それぞれの視点でお子さまを観察し、子どもたちの発達について実際の保育・教育の場面を共有し、発達把握や発達に沿った助言を行っている。	・保育所(園)、幼稚園、学校等でのお子さまの活動に沿った具体的な助言を行い、より日常の保育・教育に活かせるようになる。
2	・センターとして訪問しているので、児童発達支援・相談等お子さまを支える多機能で情報を収集して、生活支援の場で役立てていただける情報等の共有ができる。	・療育の場面を実際に見たり、療育に時には入ってお子さまと実際に関わったうえで訪問支援を行う等各々の場面で見せる姿を知ることで多角的に評価する機会を持っている。	・定期的にケース会議を行い、それぞれが支援している情報等を共有し、保育所(園)や幼稚園等での支援に活かせるようになる。
3	・保護者や保育所(園)、幼稚園、学校等の心配事・困り事への共感的な支援	・お子さまの様子や具体的な支援について、具体的に伝えるようになっている。 ・説明の際にはできるだけ専門用語を使用せず、分かりやすい説明を行うようにしている。	・定期的な面談を行い、保護者や保育所(園)、幼稚園、学校等から丁寧な聞き取りを行う。 ・保育所(園)、幼稚園、学校等での取り組みを知ることで、より共感的な支援ができるようになる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者や保育所(園)、幼稚園等のニーズに合わせた訪問回数、時期に訪問支援が行えていない。	・契約者の皆様に同じ頻度での訪問支援が行えるようにしていけるため、保護者や保育所(園)、幼稚園の希望に添えていない可能性がある。	・保護者の希望や保育所(園)、幼稚園でのお子様の様子に合わせた訪問が実施できるよう、回数や訪問希望時期を把握し、訪問支援を実施する。
2	・保育所(園)、幼稚園での具体的な取り組みに対し、訪問実施後の状況確認や助言ができていない。	・訪問支援実施後の様子について状況把握する機会が設けられていらない。 ・訪問回数が年2～3毎程度の訪問になっているため、お子さまの様子の変化が十分共有できていない可能性がある。	・訪問実施だけでなく電話で状況確認を行う等、継続的に助言を行えるようにする。 ・必要な時期にタイムリーに訪問できるように体制をとり調整をする。

法人（事業所）理念	だれもが 人として大切にされ地域で自分らしくいきるために私たちは 利用者ははじめだからも信頼される支援を行い 安心して暮らせる地域社会の実現に貢献します								
支援方針	①地域で生活する子どもたちの生活がよりよいものとなるよう質の高い支援を提供します ②充実した保護者会・支援者支援を提供し、いかなる障害概要があっても地域で生活ができるよう地域づくりに取り組みます ③子どもの発達や障害についての理解を深め、専門的な支援を実現できる人材育成に努めます								
営業時間	9 時	0 分から	17 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり	なし		
	集団療育：10:00～13:00 15:30～16:30 個別療育(保育・PT・OT・ST)：14:00以降各1時間 17:00終了					※基本的には、ご家族での送迎をお願いしています			
支 援 内 容									
クラス名	集団療育：10:00～13:00 おひさまくらす・だるまグループ	集団療育：10:00～13:00 おひさまくらす・仔牛グループ		集団療育：15:30～16:30 おひさまくらす・ワニワニグループ	個別療育（保育・PT・OT・ST）				
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態の常なるチェックと必要な対応を行い、心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行います ・睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援します ・健康な生活の基本となる食を営む力の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるよう、口腔内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下、姿勢保持、自助具等に関する支援を行います 		<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態の常なるチェックと必要な対応を行い、心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行います ・身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援します ・健康な生活の基本となる食を営む力の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるよう、口腔内機能・感覚等に配慮しながら、咀嚼・嚥下、姿勢保持、自助具等に関する支援を行います 		<ul style="list-style-type: none"> ・健康状態の常なるチェックと必要な対応を行い、心身の異変に気づけるよう、きめ細かな観察を行います ・生活の中で、さまざまな遊びを通して学習できるよう障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく環境を整え支援します 			
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・細かくちぎった新聞紙やボールプール、砂場に埋もれる、タオルや布に包み込まれる、布ブランコなどの揺れを感じる等、身体全体で感覚を感じることができる遊びをたくさん経験をし、心地よい感覚を見つけてもらえるように支援します ・思いっきり身体を使う粗大運動遊びを取り入れ自身の体の使い方を感じてもらえるよう支援します 		<ul style="list-style-type: none"> ・細かくちぎった新聞紙やボールプール、砂場に埋もれる、タオルや布に包み込まれる、布ブランコなどの揺れを感じる等、身体全体で感覚を感じることができる遊びをたくさん経験をし、心地よい感覚を見つけてもらえるように支援します ・思いっきり身体を使う粗大運動遊びを取り入れ自身の体の使い方を感じてもらえるよう支援します 		<ul style="list-style-type: none"> ・走る、跳ぶ、押す、引っ張る等全身を使った遊びを楽しむことができるよう環境を整え、子どもが自ら自身の身体を使う喜びを感じてもらえるよう支援します ・危険な場所、遊び方に注意し、安全に気をつけて行動できる環境を整え支援します ・入れる、つまむ、はめる等微細運動遊びを取り入れ自身の体の使い方を感じてもらえるよう支援します ・個々の好きな感覚、苦手な感覚を把握し、遊びの中に感覚遊びを好きな感覚を十分取り入れ楽しむ機会を作ります 			

本人支援	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚を刺激する様々な遊びの体験を十分に重ね、身体を使って自己表現できる環境を作ります ・「何を」「どれだけ」「いつ終わるのか」がわかるように、活動の順番や終わりをはっきり示します ・できた経験を積み重ね、褒める機会が多く持てるよう支援します 	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚を刺激する様々な遊びの体験を十分に重ね、身体を使って自己表現できる環境を作ります ・活動プログラムの流れを理解し見通しを持てるよう支援します ・できた経験を積み重ね、褒める機会が多く持てるよう支援します 	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚を刺激する様々な遊びの体験を十分に重ね、身体を使って自己表現できる環境を作ります ・活動プログラムの流れを理解し見通しを持てるよう支援します ・できた経験を積み重ね、褒める機会が多く持てるよう支援します ・「困ったときの伝え方」を伝え、落ち着いて活動に取り組めるよう支援します 	<ul style="list-style-type: none"> ・「何を・どれだけ・いつ終わるのか」がわかり見通しをもって活動に参加できるよう支援します ・弁別、概念化の基礎形成を専門的な視点で発達を評価し支援します
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちや希望を伝えられるように、ことば・ジェスチャー・絵カードなど、その子に合う方法を使います ・指さしや見つめ合いなど「一緒に見る・示す」経験を増やし、やり取りの楽しさを育てます 	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しのある絵本、歌や触れ合い遊び等職員と楽し ・短くはっきりした合図と視覚的なサポートを使います ・家庭や園・学校と方法を共有し、同じやり方で支えます 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや生活の中で必要な言葉を知り使えるよう支援します ・自分の思いや考え、要求や経験を自分なりに言葉にして伝えられるよう支援します ・家庭や園・学校と方法を共有し、同じやり方で支えます 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちや希望を伝えられるように、ことば・ジェスチャー・絵カードなど、その子に合う方法を使います ・話に興味や関心を持ち、親しみを持って聞くように支援します ・思ったことや考えたことを伝えたり、相手の思いを感じたりしながら遊ぶ環境を作ります
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・泣く、動作、表情、声などでの快不快の訴えを十分に受け入れ、人との関わりに安心感をもってもらえるように支援します ・身近な大人や他児に関心を持って自ら関わろうとする遊びや活動の提供をします 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な大人や他児に関心を持って自ら関わろうとする遊びや活動の提供をします ・自分の気持ちを言葉やしぐさで伝えながら他児や職員と一緒に遊ぶ中で、相手の気持ちや思いに触れられるよう支援します ・見立て遊びやごっこ遊び等の象徴遊びを通して、役割交代や協力する経験を増やします 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを受け入れてもらうことで職員と信頼関係を深める支援を行います ・ごっこ遊びやゲームで、役割交代や協力する経験をふやします ・あいさつ、順番を待つ、役割を交代するなど、集団で過ごす基本を育みます 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを受け入れてもらうことで職員と信頼関係を深める支援を行います ・ルールのある遊び等を通して約束を学ぶ機会をもつよう支援します
家族支援		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者通園週間(毎月1週間)：療育現場にご家族、利用児、職員が共に過ごすことで利用児の新たな発見をお互いに共有したり、他利用児のご家族とのつながりの場となっています ・ファミリーミーティング：療育を受けている利用児のご家族を対象に座談会の場を設けています。それぞれの悩みを話したり、子育ての先輩の保護者の方からのアドバイスを受けたり子育ての糧となる機会となっています ・ペアレントトレーニング：専門の講師を招いて子どもの発達特性に合った適切な関わり方を学ぶ機会を設けています ・たんぽぽひろば：ご家族とおひさまくらすの利用児が一緒に参加する広場です。「親子で遊ぼう！」をテーマに楽しい活動内容をお伝えしています 	移行支援		<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健と連携し、療育を利用する前のクラス「ぴゅあるーむ」を毎月1回開催しています ・乳児期から療育を利用され、地域の保育所等に並行通園される際には、名張市の関係機関と連携し見学や情報共有の会議を設定し、安心して通える環境を作っています ・就学する際には、関係機関と会議の場を持ち育ちを共有したり、ご家族の依頼に応じて特別情報提供書を作成して今後の生活支援に必要な情報をお伝えします
地域支援・地域連携		<ul style="list-style-type: none"> ・名張市の母子保健、子ども発達支援センターと協働し、名張市個別乳幼児特別支援事業の一部事業委託を受け、児童発達支援センターとして、地域の保育所・こども園・幼稚園等に、巡回、見学の受け入れ、計画書作成会議への参画等をしています ・保育所等訪問支援事業を通して、地域の小中学校・特別支援学校・保育所・こども園・幼稚園・放課後等デイサービス支援事業所等へ訪問し、日常生活の拠点で安心して過ごせる環境を共に考え、実践を確認しています ・必要に応じて、医療機関や暮らしの場(入所施設等)への連携し、多角的な視点でお子様の成長を支えることができるようになっています 	職員の質の向上		<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止・身体拘束適正化委員会を設置し、虐待防止責任者及び虐待防止マネージャーが、職場状況やアンケート結果等を踏まえ、取り組み及び研修計画を策定しています。職員間で支援についてディスカッションを行い、よりよい支援へのつなげています ・感染症対策委員会を設置し、感染症や衛生に対する理解を深め、予防に努めるとともに対策に関する実践研修を積み、安全に配慮します ・利用児の尊厳の保持、人格の尊重を重視し、権利擁護に関する研修を実施するとともに苦情要望に丁寧に対応し、サービスの質の向上に努めます ・子どもの発達や見立てについて、保育士、PT、OT、ST、相談支援専門員、心理士等で、アセスメント、モニタリングを協議で深め、多角的な視点での見立てができるようにしています
主な行事等		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者通園週間(毎月1週間)：療育現場にご家族、利用児、職員が共に過ごすことで利用児の新たな発見をお互いに共有したり、他利用児のご家族とのつながりの場となっています ・たんぽぽ広場：ご家族とおひさまくらすの利用児が一緒に参加する広場です。「親子で遊ぼう！」をテーマに楽しい活動内容をお伝えしています ・冬のお楽しみ会：色々な遊びのコーナーでご家族と一緒に楽しく過ごしたり、他利用児のご家族とのつながりの場となっています ・つぼみ展：利用児の作品を展示したり、療育で遊んだ表現活動を展示し、育ちを皆で共感しています 			